

小学校配置に関する深川市民の意見を聴く会【結果】

日時：令和6年1月18日（月）

午後7時～7時45分

場所：納内時計台プラザ 講堂

■参加者 9名

（保護者3・学校運営協議会委員1・市議会議員2・校長及び教頭2・その他1）

教育委員会：三浦教育長・宮田教育委員・轡田教育委員・倉本教育委員・伊藤教育部長・
佐藤学務課長・星野学務補佐・山崎管理係長・澤田主査

市長出席

■司会進行 伊藤教育部長

1. 教育長挨拶

2. 資料説明（山崎管理係長）

- ・資料1～小学校配置に関する深川市民の意見を聴く会
- ・資料2～小学校別学級数及び児童数推計
- ・別添1～深川市学校配置基本方針
- ・別添2～深川市学校配置基本方針に基づく小学校に係る対応について

3. 意見交換

※以下の記録は要点を整理した概要であるとともに、個人に関する内容や単純に資料を確認する発言などは省略しています。

○保護者～将来推計を過去にも行っていると思いますが、実際との差はどのくらいあるもののでしょうか。きっと毎年推計しているのかなと思うので、例えば6年前に行った推計と現在の差などに興味があります。

○教育委員会

～別添2の最後のページをご覧ください。この場で6年前に行った推計と現在を比較することはできませんが、平成24年度の基本方針を策定したときにも推計を行っておりまして、その推計と平成28年度の実際の児童数を比較した表がありますので、そちらでご質問にお答えしたいと思います。

各学校の合計欄の横に平成24年度当時に行った推計として「H24年時推定児童数」を記載しています。

例えば、一巳小の児童数は推計よりも実際の児童数が増えているなど、地域によって推計との差にばらつきはありますが、市内全体としては推計の傾向と同じように児童数が減少しています。

○保護者～将来推計では今後も児童数が減少していくことが分かりましたが、現在、0歳の子どもについては、令和18年度である令和19年3月に小学校を卒業するので、その時点までの推計があれば教えていただきたいです。

それと今後、統廃合を考えていく上で、小学校では6校をどうしていくのか検

討していくと思いますが、子どもは減少していくため、もっと先を見ると2つの中学校がありますので、中学校における統廃合も考えていかなければならないのではないかと考えています。

もし、2つの中学校が統合しひとつとなった場合、1学年に3クラスできるのかなと思います。今後、中学校の統廃合も考えられるのかと思いますので、中学校に関するビジョンについても教えていただきたいです。

それと最近では他の自治体で義務教育学校を進めている例も増えていますので、深川市において義務教育学校を進めていく考えなどがあれば教えていただきたいです。

○教育委員会

～今回の推計においては、現段階で実際に把握できる年齢の子ども達の数から試算しているため、令和19年3月に小学校を卒業する時点の数字は持ち合わせておりません。

中学校の統廃合については、今回の目的が小学校配置に関する市民の意見を聴く会となっていることや、教育長のあいさつでもお伝えしたように児童数などの基準を持って統合を進めるというのではなく、地域の声をお伺いした中で検討されていくものと考えていますので、こちらもビジョンなどは持っていません。

義務教育学校については、小学校と中学校が一緒になった1年生から9年生がいる学校となりますけれども、先ほどのお答えと同じように、これも教育委員会として義務教育学校を進めるといった考えは現在持っていません。

○保護者～現時点での考えはないかもしれませんが、将来的な可能性としてはありますか。

○教育委員会

～手法として義務教育学校はあるかもしれません。

○保護者～平成24年度の基本方針には「クラス替えができることの効果」や「適度な切磋琢磨が必要である」などという観点から、小学校、中学校とも1学年2学級から3学級の標準規模が望ましいと考える。」とありますが、この方針について、現在も考え方は変わっていないということでしょうか。

○教育委員会

～現在、この方針に変わるものはありませんので、ご質問の部分についての考えも変わっていません。国の方でも当時同じような考え方をしております、こちらも現時点で変わりはない状況です。

○保護者～20人くらいのクラスにおいて1クラスとしているようなので、共通の基準に沿った教員の配置がなされていると思いますが、今後、市の予算で教員を採用し、本来1クラスの人数を二つに分けて、きめ細かな教育を進めていくような考えはありますか。

○教育委員会

～今の時点では道教委の基準に沿って学級編制をしておりますし、市の予算で教員を配置する方針などはありません。

○学校運営協議会委員

～将来推計でも5年後には更に数が少なくなっているため、まちとして小学校がなくなると衰退し寂しくなりますが、子ども達にとっては大勢の中で切磋琢磨していくことや、部活動などが出来る方が良いと思いますので、統合に向かって進めていけば良いと思います。

多度志小が一番少ないので、行事においても地域ぐるみで取り組んでいると聞いているため寂しくなってしまうかもしれませんが、将来的には統合に向かっていく方が良いと思います。

○保護者～例えば統合するとなった場合、地域との協議や予算が必要になるとは思います、統合までには、どのくらいの期間がかかるのでしょうか。

○教育委員会

～統合は頻繁にあるものではないのでお答えが難しいですが、今お答えするとしたら、直近では中学校の統合がありましたので、その時の経過概要を資料1の3ページに記載しています。

この時は平成21年6月に学校関係者による懇話会を開催しまして、平成24年度に基本方針を策定し、この基本方針に基づき平成26年4月に中学校を統合した流れがあります。

ただ、この時は5校あったものをいっぺんに2校したですとか、中学校の場合はジャージや制服など検討課題も多かったため、このくらいの時間がかかったという部分はあります。

一概には比較できませんが、統合する学校の数や検討課題などによって統合までにかかる時間は変わってきます。

○保護者～この先、市の方から統合についての考えを示す場合はあるのでしょうか。あくまで地域の方から出た声を拾う形になるのでしょうか。

○教育委員会

～基本的に地域と協議して進めるべき内容だと考えていますが、現在の小学校配置の根拠となっている考え方を決定してから年数が経過しているため、今回のような意見を聴く会を開催することとなりました。

今回、みなさんからいただいたご意見を集約した後に、もし今後の方針等を作るとなった場合には、改めて地域の方々から方針についてご意見などを伺う場を設ける必要があると考えています。

そのようにして決まった方針ができた場合は、以降、その方針に沿って進めていくことになろうかと思っています。

現在は、平成29年に決定した方針がいつ終わるというものでもないのですが、現在の方針のまま推計などの状況を見ながら統合をいつ頃にするということを決めるのか、新たに方針を作るのかによっても進め方は変わると考えています。

どのように進めるとしても地域の方々とお話をさせていただきながら進めていくこととなります。

○保護者～今回、学校配置を考えていく上で児童数に着目していると思いますが、現在、

教員も不足していることが課題だと思います。深川市の場合、北海道が配置している正規教員が足りているのかということや、期限付き教員で補っている状況はあるのでしょうか。

また、市費で教員を雇用して、学級で教科を教えている人はいるのでしょうか。

教員以外にも用務員や給食配膳員なども市の予算で確保していると思いますが、その部分についても状況を教えていただけたらと思います。今後、人手が不足することで教育の質が低下するのではないかと気になったものですから質問しました。

○教育委員会

～教員については北海道において配置されておりまして、現在、北海道においても人材不足が発生している状況と聞いています。現在、市において欠員はありませんが期限付き教員はおります。

深川市において市費配置教員はおりませんが、市費で確保している職員では、学校事務補、公務補、特別支援教育支援員がおりまして、現在のところこちらで欠員はありません。

今後については、人材不足が懸念されます。

例えば特別支援教育支援員には教員か保育士の免許があることを条件としていますので、この辺で人材の確保が難しくなってくるのかもしれない。

○教育委員会

～皆さんからのいただきました大変貴重な意見ありがとうございました。今後どのような方向で持っていくのか十分精査して進めていきたいと思っております。

以上をもちまして、本会を終了したいと思います。

以上